

通貨と金利と物価

令和6年1月9日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

通貨基準と金利政策は、現状の物価基準とともに、グローバル基準とともにマクロ経済における説明と理解を要求される。

これらはあまりにも低い物価基準は、グローバル基準における国内の現実と2分化を有するのである。

グローバル企業は必ずグローバル基準における自己経営を有するのである。グローバリゼーションは、アベノミクスの落とし子なのである。

これらは国内においても、これら世界の新しい現実への理解は存在し、グローバル化における現実も存在するのである。

これらは、既存社会との完全の乖離と2分化を有する。一部上場の企業は必ずこれらへの理解を有するのである。

これらは現実変化があまりにも早く存在することを意味する。これら潮流は、企業が生き残りを有することにおいて否定できないのである。

これらは、低金利政策における国内資金の流出が、グローバリゼーションを与えること、円安が、輸出企業の好調な成績を与え、海外旅行客の流入を与えること、低物価は、海外との完全な相違を与え、これら現実の乖離は、自由貿易システムにおける新しい現実を創造することなどが存在する。

これらはグローバル経済に飲み込まれることと、国内の独自社会構造が、新たな自己を模索していることを意味するものである。

これらあまりにもいびつなスパイラルは、グローバル経済と国内の相違性のひずみなのである。これら現実には新しいヒエラルキーの形成を与えるものである。これらは、既存価値観の崩壊を有するのである。これらは資本主義の結語として、資本が世界を支配することであり、これら富という価値観は、新しい現実における真実なのである。